

日本フードサービス学会

第18回年次大会プログラム

フードサービス 成長への突破口
—新たな競争力の源泉—

日 時：2013年5月11日（土）

9：30～10：00	通常総会
10：05～18：00	年次大会
18：10～19：30	懇親会

会 場：学習院女子大学

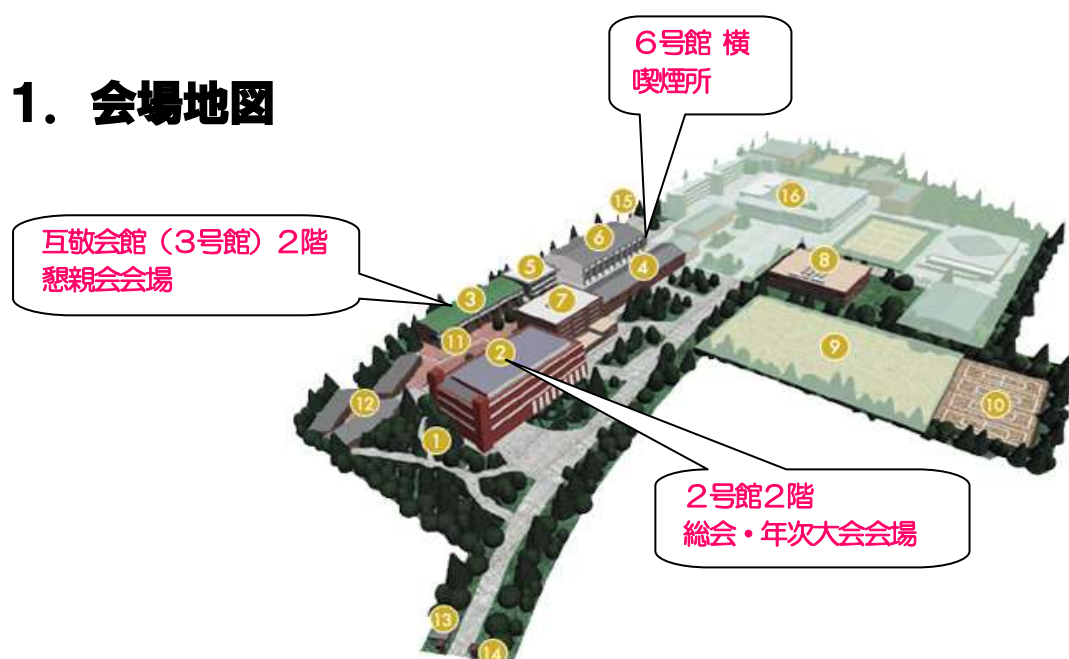
（東京都新宿区戸山3-20-1）

《 目 次 》

1. 会場地図	1
2. 会場利用のご案内	2
3. プログラム時間割	3
4. 基調講演	4
5. シンポジウム	5
6. セッション	6
7. 自由論題、助成研究報告	9
8. 総括	16

本プログラムにおける氏名標記は敬称を省略しております。ご了承願います。

1. 会場地図



- | | |
|--------------------|----------------|
| ① 遊歩道 | ⑨ 女子中・高等科グラウンド |
| ② 2号館 | ⑩ 女子大テニスコート |
| ③ 互敬会館（3号館） | ⑪ 中庭 |
| ④ 4号館 | ⑫ 部室棟 |
| ⑤ 5号館 | ⑬ 正門守衛所 |
| ⑥ 体育館（6号館） | ⑭ 正門（鉄門） |
| ⑦ 学習院国際文化センター（7号館） | ⑮ 北門守衛所 |
| ⑧ 女子大図書館（2・3F） | ⑯ 学習院女子中・高等科 |

2. 会場利用のご案内

◇通常総会・年次大会（9：30～18：00）

○受付・・2号館2階

○通常総会・年次大会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2号館 2階 222 教室、223 教室

○講師、司会、役員控室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2号館 3階 234 教室

◇懇親会（18：10～19：30）・・・・・・・・・・・・・・・・・・互敬会館（3号館）2階ラウンジ

【協賛】あきた園芸戦略対策協議会、JA あきた北央

◇弁当配布場所（12：30～14：00）・・・・・・・・・・互敬会館（3号館）2階ラウンジ

◇昼食会場（12：30～14：00）・・・・・・・・・・互敬会館（3号館）2階ラウンジ

お弁当をご用意しております。12：30 より互敬会館 2 階ラウンジにて配布を開始します。弁当は参加名札と一緒に
お渡しした黄色のチケットと引き換えとなりますので大切に保管して下さい。年次大会会場【2号館教室】内での食事は
ご遠慮いただいておりますのでご協力をお願いいたします。なお、上記時間内での弁当引換えにご協力下さいますよう
お願いします。お弁当の空箱は所定の回収箱へお戻し下さい。

◇ドリンクサービス（15：00～16：40）・・・・・・・・・・2号館2階

毎年大好評の秋田県からのフレッシュなジュースを今回も提供いただきました。是非ご賞味下さい。

【協賛】あきた園芸戦略対策協議会

◇手荷物について

クロークはございません。貴重品等は必ずご自身で管理されるようお願いいたします。

◇喫煙について

大学敷地内は禁煙です。6号館の横（北門守衛所寄り）の喫煙所をご利用下さい。ご協力をお願いいたします。

3. プログラム時間割

9:00	受付開始				
2号館 222 教室		2号館 223 教室		互敬会館2階ラウンジ	
9:30 10:00	第18回通常総会 (30min)				
休憩 (5min)					
10:05 11:15	基調講演 (70min) 『新たな競争力の源泉「イカ」の成長からつなげる「マカ」への挑戦』 三井剛 (JF 東日本フィナンシャルグループ・代表取締役社長) 司会: 石倉知忠 (つばめ・取締役副社長)				
休憩 (5min)					
11:20 12:40	セッション1 (80min) 『高原価率経営は時代の革新者か?』 白鳥和生 (日本経済新聞・消費産業部次長) 大澤哲 (柴田書店・企画編集室室長) コーディネーター: 伊藤匡美 (東京国際大学・准教授)		11:20 12:00 12:40	自由論議 (40min) 『サービス環境設計手法に関する研究』 伊藤公佑 (名古屋工業大学・院) 助成研究報告1 (40min) 『日本と韓国JEE市場の発展過程に関する比較研究』 金順河 (崇義女子大学・副教授) 他	
昼休み (60min)					
13:40 15:00	セッション2 (80min) 『CSV (社会と共有できる価値の創出) と企業経営』 鎌田靖 (セゾングループ・取締役常務執行役員) 江口泰広 (学習院女子大学・教授) 司会: 小泉徹 (首都大学東京・教授)		13:40 14:20 14:20 15:00	助成研究報告2 (40min) 『コミュニティ・カフェによる地域コミュニティの活性化』 菅原浩信 (北海学園大学・教授) 助成研究報告3 (40min) 『外食産業における食品リサイクル法への対応』 小林富雄 (中京学院大学・短期大学部・准教授) 他	
休憩 (10min)					
15:10 16:30	セッション3 (80min) 『日本の外食産業のリアル展開 ～8番ラメを事例に～』 吉村由則 (ババコ 取締役執行役員ラーメン事業本部長) コーディネーター: 藤居譲太郎 (藤居事務所・代表取締役社長)		15:10 15:50 15:50 16:30	助成研究報告4 (40min) 『スイーツを美味しくするデザイン要素に関する研究』 坂本和子 (京都工芸繊維大学・准教授) 他 助成研究報告5 (40min) 『フードサービス業における「オーナーシップ」の規定要因の研究』 川又啓子 (京都産業大学・教授) 他	
休憩 (10min)					
16:40 17:55 17:55 18:00	シンポジウム (75min) 『フードサービス成長への突破口 (仮)』 佐倉住嘉 (カワハス・相談役) 野田一夫 (事業構想大学院大学・学長) コーディネーター: 横川潤 (文教大学・准教授) 総括 (5min) 年次大会実行委員長・横川潤				
			18:10 19:30	懇親会 (80min) 司会: 高力美由紀 (宮城大学・准教授)	

『新たな競争力の源泉

「エキナカ」の成長からつなげる「マチナカ」への挑戦』

三井 剛 (株)JR東日本ステーションリテイリング 代表取締役社長

司会 石倉 知忠 (株)つばめ 取締役副社長

【三井氏略歴】

1995年 東京理科大学工学部建築学科卒業。(一級建築士)同年 東日本旅客鉄道(株)入社。東北地域本社(現仙台支社)仙台建築技術センター福島分室。1997年 東北工事事務所建築課。2000年 (株)日本レストランエンタプライズ出向(営業本部企画部)。2003年 本社事業創造本部資産活用部門 コスモスプランPT。2004年 同 エキナカ開発プロジェクト。2006年 (株)JR東日本ステーションリテイリング出向(企画開発部 チーフマネージャー)。2008年 同 企画開発部長。2012年より現職。

【石倉氏略歴】

1995年 慶應義塾大学法学部政治学科 卒業。同年 サッポロビール(株)入社。1998年 (株)つばめ入社。2009年より現職。

『フードサービス成長への突破口（仮）』

佐倉 住嘉 (株)カタログハウス 相談役

野田 一夫 事業構想大学院大学 学長

コーディネーター 横川 潤 文教大学 国際学部 准教授

【佐倉氏略歴】

1936 年東京都千代田区神田生まれ。1955 年東京外国語大学（スペイン学科）卒業。1959 年東和通商（株）（中南米向け雑貨及びプラントの輸出商社）。同年 5 月より 1 年間メキシコ駐在。1968 年サムサンコーポレーション創業、代表取締役就任（韓国の腕時計メーカー、スイス腕時計メーカー、エニカー社と協定。韓国製スイス時計の中南米向け輸出商社）1971 年 4 月スタンダード工業（株）取締役就任。（現 日本マランツ（株）東証二部上場）同年 7 月米国スーパースコープ社取締役就任（日本マランツ（株）の親会社）同年 11 月東京 SEC（株）代表取締役就任（三星グループが韓国内に電子機器工場を設立するにあたり、テレビ工場・ステレオ工場部門の製造ノウハウ供給機関。三星電子とのジョイントベンチャー会社）1972 年赤坂で中華「サンマル」を開業。1977 年英研（株）設立会長就任（英語塾を家庭の主婦が開設するノウハウを供給する会社）。1978 年米国法人ボーズ・アジアリミテッド代表取締役就任（ボーズ製品の日本への輸入販売会社）。1984 年ボーズ（株）に改組。代表取締役就任。1989「ジャパニーズ・イングリッシュの逆襲」をファンハウスより上梓。1991 年米国ボーズ・コーポレーション副社長就任。1998 年「サラリーマンのための英語出世塾」を小学館より上梓。2008 年 4 月ボーズ（株）名誉顧問就任。同年 5 月「修羅場のビジネス突破力」を小学館より上梓。2009 年「ご挨拶」を文藝春秋より上梓。2010 年（株）カタログハウス代表取締役就任。2014 年 4 月より現職。

【野田氏略歴】

1927 年生まれ。1952 年東京大学社会科学部卒業し、同大学大学院特別研究生として 3 年間在籍。1960 年マサチューセッツ工科大学ポストドクトラル・フェローとして企業経営の国際比較研究を行う。1965 年立教大学教授に着任。同大学観光学科開設にあたり初代学科長を務める。交友のあったピーター・ドラッカーの名著『現代の経営』を日本で初めて翻訳し出版。1970 年日本で最初の公益法人シンクタンクとなる財団法人日本総合研究所を創設し初代所長に。1985 年には日本初のベンチャー経営団体社団法人ニュービジネス協議会を設立し初代理事長に就任。1989 年多摩大学、1997 年宮城大学を設立、2012 年に事業構想大学院大学、いずれも初代学長に就任する。ベンチャー三銃士と呼ばれている孫正義（ソフトバンク創業者）、澤田秀雄（H I S 創業者）、南部靖之（バソナ創業者）らの師でもある。著書に、『日本の重役』（ダイヤモンド社）、戦後日本の経済成長』（共著、岩波書店、日経・経済図書文化賞受賞）、『戦後経営史』（編著、日本生産性本部、日経・経済図書文化賞受賞）、『大学を創る』（紀伊国屋書店）、『私の大学改革』（産能大出版部）、『悔しかったら、歳を取れ！ーわが反骨人生ー』（幻冬舎ゲーテビジネス新書）ほか多数。

【横川氏略歴】

文教大学国際学部国際関係学科准教授。専攻はフードサービス・マーケティング論、担当科目はフードサービス・マーケティング、フードサービス起業論、国際食文化論等。慶應義塾大学法学部法律学科卒業。同大学院商学研究科修士課程修了、ニューヨーク大学経営大学院で MBA 取得。アメリカの有力食ガイド『ザガット・サーバイ』を翻訳し、日本に初めて紹介。『レイヴィトンシティガイド東京』のレストラン部門や、シンガポールベースの食ガイド『ミーレガイド』東京編を執筆するなど、食評論家としても旺盛な活動を続けている。近著は『〈錯覚〉の外食産業』（商業界、2012 年）、『クックパッド社員の名刺の秘密』（講談社、2013 年）。

1. 『高原価率経営は時代の革新者か?』

白鳥 和生 (株)日本経済新聞社 消費産業部 次長

大澤 哲 (株)柴田書店 企画編集室 室長

コーディネーター 伊藤 匡美 東京国際大学 経営学部 准教授

【白鳥氏略歴】

長野県生まれ。1990年明治学院大学国際学部卒業。同年、日本経済新聞社入社。高松支局、流通経済部、札幌支社編集部などを経て、現在、消費産業部次長。日経MJコラム「底流を読む」、日経電子版コラム「消費を斬る」などを執筆中。

【大澤氏略歴】

1995年学習院大学経済学部経営学科卒業。1996年(株)柴田書店に入社し『料理百科』に配属。1998年に外食産業専門誌『月刊食堂』に異動。2004年に『月刊食堂』副編集長、2006年に編集長に就任。2011年に企画編集室室長に就任し、現在は新刊MOOK編集長兼責任者。外食産業記者会副代表幹事。また松蔭大学『レストラン経営論』非常勤講師を歴任。

【伊藤氏略歴】

1996年青山学院大学卒業。2002年青山学院大学大学院経営学研究科博士後期課程満期退学。2002年千葉経済大学経済学部専任講師。2006年同助教授。2007年同准教授。2008年より東京国際大学商学部准教授（現職）。専門は流通・マーケティング研究。近著に「外食企業と生産者の連携の形態と成果」『日本フードサービス学会年報』第17号（2012年）。

2. 『CSV（社会と共有できる価値の創出）と企業経営』

鎌田 靖 (株)セブン-イレブン・ジャパン 取締役常務執行役員 商品本部長

江口 泰広 学習院女子大学 国際文化交流学部 教授

司 会 小泉 徹 首都大学東京 オープンユニバーシティ 教授

【鎌田氏略歴】

1958年北海道生まれ。1982年中央大学文学部卒。同年（株）セブン-イレブン・ジャパン入社。1988年商品本部雑貨部マーチャンダイザー。1993年商品本部デパート部マーチャンダイザー。1999年商品本部加工食品部チーフマーチャンダイザー。2000年商品本部加工食品部シニアマーチャンダイザー。2004年商品本部雑貨部総括マネジャー。2006年執行役員商品本部IT・雑貨部長。2009年常務執行役員商品本部長。2011年より現職。（株）セブン&アイ・ネットメディア、（株）セブンネットショッピング、（株）セブン&アイ出版、各社の取締役を兼任。

【江口氏略歴】

（財）流通経済研究所を経て、ロータリー財団大学院奨学生として North Texas State Univ.（現 Univ. of North Texas）、Boston Univ.のMBAに留学。経営学とマーケティングを専攻。（財）日本総合研究所主任研究員（立教大学、学習院大学非常勤講師）、駿河台大学経済学部/大学院教授を経て、1998年学習院女子大学創設と共に国際文化交流学部教授。日本フードコーディネーター協会理事、Fisher College（Boston, USA）名誉理事、福島学院大学監事、ソーシャルプロダクト普及推進協会（APSP）会長他。

所属学会：日本フードサービス学会（2002年度、2006年度学会大会実行委員長、2010、2011年度副会長）、日本商業学会、日本広報学会、Association for Asian Studies（AAS）他。著書に『マーケティングのことが面白いほどわかる本（基本編）』（中経出版）、『マーケティングの英語』（NOVA）、『IT革命で変わる 新しいマーケティング入門』（中経出版）、『新製品開発マネジメント』（共著：ダイヤモンド社）、『変革期の流通』（共著：日本経済新聞社）『日本の経営』（共著：ダイヤモンド社）他。

【小泉氏略歴】

首都大学東京教授（オープンユニバーシティ 経営・会計学分野）1977年慶応義塾大学商学部卒業。1979年同大学大学院商学研究科修士課程修了。1982年同大学大学院商学研究科博士課程単位取得満期退学。専門分野は流通・マーケティング。著書に「サービス・マーケティングの新展開」（共著）、「新版商業学入門」（共著）他。ランチェスター戦略学会会長、経営哲学学会理事。

3. 『日本の外食産業のアジア展開 ～8 番ラーメンを事例に～』

吉村 由則 (株)ハチバン 取締役執行役員 ラーめん事業本部長

コーディネーター **藤居 譲太郎** (株)藤居事務所 代表取締役社長

【吉村氏略歴】

1961 年金沢生まれ。金沢工業大学卒業後、(株)八番フードサービス（現株）ハチバン）に入社。以来 25 年間、8 番ラーメンの商品開発に従事する。1992 年 8 番ラーメンの海外 1 号店（タイ王国）オープン時の食材開発、商品開発を担当。その後も商品開発部長として、北京、マレーシア、香港、台湾、上海、大連等の海外出店事業において、食材調達やメニュー開発、セントラルキッチン立上げの指揮を執る。2002 年取締役就任。2005 年取締役マーチャンダイジング部長を経て、2012 年 4 月取締役執行役員ラーメン事業本部長に就任し現在に至る。

【藤居氏略歴】

1972 年明治大学卒業、サントリー(株)入社。1979 年米国コーネル大学ホテル経営学部留学。1990 年ファーストキッチン(株)社長就任。1991 年日本サブウェイ(株)社長就任。1997 年藤居事務所設立。フードサービス&レストランビジネスに特化したコンサルタントに従事。著書に『フードサービス業における情報化戦略とテクノロジー』、『顧客の声を活かすフードサービス情報戦略』（いずれも、中央経済社、共著）。

7. 自由論題、助成研究報告

11:20~16:30

自由論題

『サービス環境構築手法に関する研究』

伊藤 公佑 名古屋工業大学大学院 工学研究科 博士前期課程

越島 一郎 名古屋工業大学大学院 工学研究科 教授

浅井 俊之 (株)ツヴァイ 事業開発本部ライフサポートサービス部 部長

筆者らはこれまでに、サービスによって顧客価値が変化する「真実の瞬間」を、店舗スタッフが同一の基準でとらえるための手法開発に取り組んできた。この研究により、顧客の発言毎に価値変化を定量的に読み取る手法「Customer Value Management System」を開発することができた。一方で、顧客の価値変化をアウトプットとすると、その瞬間におけるインプットが何にあたるのかを特定するプロセスは明らかになっていない。店舗スタッフが真実の瞬間の重要性を理解したうえで、さらにサービスの改善を行うには、瞬間にかかわった要因とその際の条件を特定する手法が不可欠である。本研究における予備調査より、顧客への主な影響要因として「接客」、「料理」、「店舗」が挙がることが判明した。サービス提供における顧客と店員の接点については、Sampson らが関係性図示手法である Process Chain Network を開発している。しかし店舗に存在する個々のアーティファクト（店舗環境に存在する接客を除いた要素）がサービス品質および顧客に与える影響を表現する手法は、十分に研究されていない。そこで本研究では、顧客とアーティファクトの接点を店員との接点と合わせて表現するサービス環境記述手法を開発した。記述手法はモデルに採用した影響要因の範囲内で、異なるモデル間の要素と構造の共通点と相違点を可視化し、成功したサービスのノウハウ保存と失敗したサービスの原因究明を可能にする。

【伊藤氏略歴】

2013 年名古屋工業大学工学部都市社会工学科卒業。同年名古屋工業大学大学院工学研究科社会工学専攻博士前期課程入学。現在に至る。

【越島氏略歴】

1979 年早稲田大学院工学研究科応用化学専攻修士課程修了。同年千代田化工建設(株)入社。1998 年千葉工業大学工学部プロジェクトマネジメント学科准教授。2001 年同大学社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科准教授。2007 年同大学同学科教授。2008 年より名古屋工業大学大学院工学研究科教授。

【浅井氏略歴】

2001 年千葉大学卒業。同年(株)イオンイーハート入社。店長を経て、2005 年より人事、経営企画、営業企画、新規事業を担当。2012 年 10 月(株)ツヴァイ出向。2012 年名古屋工業大学大学院修了。

助成研究報告 1.

『日本と韓国コーヒー市場の発展過程に関する比較研究 —喫茶・カフェを中心としたコーヒーの市場展開を中心に—』

金 順河 崇義女子大学 観光科 副教授

圓尾 修三 金沢大学 講師

コーヒーは世界中で広く取引されて消費されている嗜好飲料である。コーヒーは近代化の歴史、文化、そして経済の流れが反映され、単純な飲料以上の意味を持つ商品である。日本はコーヒー 1 年間の消費量として世界で第 4 番目（アメリカ、ドイツ、ブラジル、日本）の国である。

韓国では外食産業の中で最も成長している業種はコーヒー関連専門ブランドと言える。2010 年前後から韓国ではコーヒー戦争の時代と言われ、原材料の価格の上昇に関わらず、コーヒー市場でのみ活性化と成長が躍進している。その現状から最近コーヒー専門店が急速に成長し、現在韓国のコーヒー市場は春秋戦国時代の真ん中にある。

そこで本研究では日本と地理的にも近く、文化的・歴史的にも長年の交流があり、経済的関係も深い韓国とのコーヒー市場の発展過程を比較研究する。具体的にはコーヒーの最初伝播時期から、現在に至るまでの喫茶・カフェを中心としたコーヒー市場の流れを文献調査の方法で分析する。両国のコーヒー市場の流れを歴史的な出来事と外食産業に影響を及ぼした外部環境要因に基づいて比較する。韓国の外食産業で最も大きな部分を占めているコーヒー市場の流れを研究することは、他の外食産業のバロメーターにもなる。また、日韓のコーヒー市場の基礎的な研究は、今後両国のコーヒー市場の実証比較研究も可能であり、コーヒー市場構造予測にも役立つと考える。

【金氏略歴】

韓国ソウル崇義女子大学観光科副教授。1985 年～1987 年慶應義塾大学大学院商学研究学科(商学修士)。1987 年～1990 年同大学院同学科(博士修了)。2003 年～2006 年韓国世宗大学校ホテル観光大学外食経営学科(外食経営学博士)。『福岡喫茶散策』書肆侃侃房(2007 年)を韓国語で翻訳(2011 年)。韓国 coffee 学会・大韓観光学会・韓国観光レジャー学会など常任理事及び編集委員。韓国月刊コーヒー社諮問委員。

【圓尾氏略歴】

1941 年大阪市生まれ。金沢大学自然科学研究科後期博士課程修了(工学博士)。中国大連工業大学食品科学部客員教授、金沢大学講師、圓尾飲料開発研究所所長、国立民族博物館共同研究員、京都大学大学院農学研究科フェアトレード研究会員、日本コーヒー文化学会常任理事、同サイエンス委員長。この間、石光商事(株)取締役営業部長、コスモフード(株) 代表取締役社長を歴任。

助成研究報告2.

『コミュニティ・カフェによる地域コミュニティの活性化』

菅原 浩信 北海学園大学 経営学部 教授

本報告の目的は、コミュニティ・カフェが地域コミュニティの活性化の担い手の1つとして、どのようにネットワークを形成し、それらを活かしてどのようににぎわいを創出すべきかについて明らかにすることである。そこで、「ネットワーク形成の場」「にぎわい創出の場」としての役割を果たしていると考えられる11か所のコミュニティ・カフェを取り上げ、そのトップ・マネジメントに対するインタビュー調査等により、具体的な分析を試みた。

その結果、(1)ネットワークの形成を図るには、①来店客・近隣住民・イベント参加者の中からイベントの講師を発掘する、②来店客やイベント参加者同士でのグループ化やグループ活動を促進する、③イベント参加者によるスピノフを支援する等が必要であり、(2)にぎわいの創出を図るには、①グループ活動の発展を支援し、当該グループやその関係者の来店を促進する、②開催するイベントへの信頼感を醸成し、新規の来店客を誘引する、③様々な外部組織との連携を進め、来店客の多様化を促進する等が必要であることが明らかとなった。

そもそも、昔の喫茶店は、人が集まり、交流やふれあいが生まれ、横のつながりができ、にぎわいのある場所だったはずである。しかし、最近のカフェは、効率性を過度に追求し続けた結果、こうした機能が失われている。今後、カフェは、地産地消等への取り組み、ワンディシェフ制の導入、ボックスショップの展開、地域密着型組織との連携等が求められよう。

【菅原氏略歴】

名古屋大学経済学部卒業後、東洋信託銀行(株)、北海道開発コンサルタント(株)勤務の傍ら、北海道大学大学院経済学研究科経営学専攻博士後期課程修了。博士(経営学)。中小企業診断士。2011年より現職。専門は、公企業論・非営利組織論。

助成研究報告3.

『外食産業における食品リサイクル法への対応 ー発生原理の多様性とマーケティングマネジメントとしての位置づけー』

小林 富雄 中京学院大学 中京短期大学部 健康栄養学科 准教授

石井 成美 愛知工業大学 経営学部 教授

宮崎 恵一 (株)Keynote st.1 PRキュレーター

わが国の食品関連事業者は、2001年に施行された「食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（以下、食品リサイクル法）」の基本方針に基づき、①発生抑制、②再生利用、③熱回収、④減量（脱水等）、の再生利用等を促進してきた。平成24年度には3Rの原則にもとづく施策として、相対的に取り組みが遅れているとされる①発生抑制について、食品関連事業者16業種に食品廃棄物等のリデュース（発生抑制）について目標値が設定された。外食産業では、高度に分業化・多店舗化する大規模チェーン企業と個人専門店との相違、単品メニュー中心のファーストフードと、多様なメニューを扱う業態との相違など、発生抑制の方向性が業界全体として定まらず、その目標値は今後のデータ検証を踏まえ平成26年度を目処に設定されることになっている。

しかし、近年の外食産業は、熾烈な競争が繰り広げられる中で、サプライチェーンやメニュー開発の差別化が進み、食品廃棄物発生メカニズムの多様性はとどまることを知らない。例えば、宅配や24時間化など顧客ニーズの変化に応じて開発されるマーケティング手法は、業態を超えた広がりを見せ、その境界自体が曖昧なものになっている。

そこで本研究では、このような状況をふまえ、業態区分ではなく食品廃棄物の発生類型別に外食産業のリサイクル法への対応策を分析し、その企業行動をマーケティング手法の1つとして位置づけることを目的としている。

【小林氏略歴】

1973年富山県生まれ。2003年名古屋大学大学院生命農学研究科資源生物科学科（博士後期課程）修了、博士号（農学）取得。生鮮品商社、民間シンクタンクを経て、2009年より現職。専門分野はマーケティングリサーチ論、流通論。趣味はギター。

【石井氏略歴】

1960年愛知県生まれ。2004年名古屋工業大学大学院工学研究科（博士後期課程）修了、博士号（工学）取得。大手ソフトウェア関連会社を経て2010年より現職。

【宮崎氏略歴】

1984年東京都生まれ。2010年青山学院大学法学部卒業。PR関連会社を経て2010年より現職。

助成研究報告4.

『スイーツを美味しくするデザイン要素に関する研究』

坂本 和子 京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 准教授

藤戸 幹雄 京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 教授

木谷 庸二 京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 助教

日本のデザイン・テイストを海外へ向けての製品開発に生かしていくにはどうすればよいか。本研究では身近な例からのアプローチとして、中国人観光客を対象に、スイーツの「美味しい」につながるデザイン属性（色や形）について調査分析を行った。

相良（2009）はケーキの美味しさの要因として知覚要因、求的要因（空腹、甘党など）、そして認知的要因（産地や価格、ブランドなど）をあげており、中でも志堂寺・都甲（2007）は見た目の美味しさに最も影響するのは色彩であると述べている。これらの先行研究を踏まえ、今回は事典や店舗紹介雑誌等に掲載されている洋菓子の中からブレ調査により代表的なもの39点を選出し、美味しそうに見える属性や態度、購買意図等の関係を調べた。

最初に行った日本人を対象とした調査では、デコレーションが少なめのチーズケーキやオーソドックスなショートケーキを好む傾向があった。これに対して、ケーキを食べる機会の少ない中国人は、嗜好がバラバラであり、人気は分散していた。デザインで見ていくと、緑色や三角の形といった要素が美味しそうに見えるポイントと思われ、チョコレートやモンブランなど茶系のケーキはそれとは反対の傾向を示した。加えて普段、中国国内で食されている菓子類同様、繊細なイメージより粗いイメージのモノが評価されるなど、いくつかの有益な知見が導出できた。

【坂本氏略歴】

京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科准教授。博士（経営学）。1983年横浜国立大学教育学部卒業後、中学校教諭、日本電気株式会社等を経て2004年より現職。横浜国立大学大学院博士後期課程国際社会科学研究科修了。マーケティングに主軸をおき、言語学やデザイン科学、ニューロサイエンスなど学際領域で研究活動に従事。

【藤戸氏略歴】

1973年日産自動車(株)デザイン本部入社。1997年Nissan Design Europe社長を経て、2001年より現職。Helsinki University of Technology, DS. (T)。専門はデザインマネジメント。デザイン感性工学会理事、デザイン学会評議員。

【木谷氏略歴】

1995年京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科修士課程修了。1997年同博士課程中退後、神戸芸術工科大学工業デザイン学科プロダクトデザインコース助手等を経て現職。博士（芸術工学）。専門はデザイン計画、デザインマネジメント、デザイン論。日本デザイン学会評議員、日本感性工学会評議員、意匠学会会員、芸術工学会会員。

『フードサービス業における「オーナーシップ」の規定要因の研究』

川又 啓子 亜細亜大学 経営学部 教授

福富 言 京都産業大学 経営学部 准教授

黒岩 健一郎 武蔵大学 経済学部 教授

本研究は、従業員の「オーナーシップ」という概念に注目して、この概念が組織にもたらす望ましい結果とは何か、またその規定要因を明らかにしようとするものである。オーナーシップとは、従業員が組織のことをあたかも我が身同然と考え、顧客や同僚、あるいは組織に対して貢献しようとする、当事者としての意識のことをいう。

準備的考察のために、フードサービス業4社を含む10社の定性的調査をおこない、また、フードサービス業につく従業員を一部に含む1,518サンプルの定量的調査をおこなった。その結果として、従業員のオーナーシップは顧客に対するサービス提供や長期継続の意志に対して好ましい影響力をもっていること、さらに、オーナーシップを高めるメカニズムは、組織の理念や志向性、従業員の特性、顧客の嗜好によって異なることが示唆された。1つは組織が標準的なサービス提供を徹底しようとする「ユニバーサル」なメカニズムであり、もう1つは柔軟な対応やプレミアムな価値提供を志向する「カスタマイズ」なメカニズムである。

つづいて、フードサービス業につく515サンプルを用いて定量的分析をおこなった。「組織が苦しい局面にあるとき、自ら苦しい思いをする意志があるか」、また、「長期継続の意志があるか」という調査項目について、オーナーシップは望ましい影響力をもっている。しかしこの影響力は、従業員満足にも共通するものであった。一方、「顧客のために努力を惜しまない」という項目に対して好ましい影響力をもつのはオーナーシップのみである。さらに、「顧客の喜びを自分の喜びとして感じることができるか」という項目には、オーナーシップは肯定的に影響するのに対して、従業員満足は否定的な影響を及ぼす。

オーナーシップの規定要因について、準備的考察に基づき、対象を「極めてカスタマイズ」な群と「極めてユニバーサル」な群に分け、様々なリーダーシップのスタイルと公正性との関係を探った。すると、「カスタマイズ」群のオーナーシップには、リーダーの影響が多く現れることに比して、「ユニバーサル」群にはほとんど見られないことがわかった。また、チームの意思決定に参画する公正性が「カスタマイズ」群のオーナーシップを高め、意思決定の一貫性が「ユニバーサル」群のオーナーシップを高めることが検証された。

【川又氏略歴】

1983年青山学院大学文学部卒業。1998年慶應義塾大学大学院経営管理研究科後期博士課程単位取得退学。主著、『なぜ、あの会社の顧客満足は高いのか』（同友館、2012年、共著）、『OQ（オーナーシップ指数）』（同友館、2010年、共訳）、『マーケティング科学の方法論』（白桃書房、2009年、編著）。

【福富氏略歴】

1998年関西学院大学商学部卒業。2004年一橋大学大学院商学研究科博士後期課程修了。主著、『なぜ、あの会社の顧客満足は高いのか』（同友館、2012年、共著）、『日本企業のマーケティング力』（有斐閣、2012年、共著）。

【黒岩氏略歴】

1990年早稲田大学理工学部卒業。2003年慶應義塾大学大学院経営管理研究科後期博士課程単位取得退学。主著、『なぜ、あの会社の顧客満足は高いのか』（同友館、2012年、共著）、『マーケティングをつかむ』（有斐閣、2012年、共著）。

自由論題・研究助成報告 1

司 会 相原 修 日本大学 商学部 教授

【相原氏略歴】

1949 年神奈川県生まれ。1972 年一橋大学商学部卒。1977 年同大学院商学研究科博士課程単位取得退学。同年成蹊大学経済学部専任講師。1980 年助教授、1986 年教授、2011 年名誉教授。2011 年日本大学商学部教授。主な著作に『フランスの流通・都市・文化』（共著・中央経済社）『グローバル・マーケティング入門』（共著・日本経済新聞出版社）『ベーシックマーケティング入門』（日本経済新聞出版社）などがある。

研究助成報告 2、3

司 会 立原 繁 東海大学 観光学部 教授

【立原氏略歴】

東海大学観光学部教授。東海大学大学院経済学研究科博士課程満期退学、東海大学政治経済学部経営学科助手、専任講師、助教授を経て、2001 年より教授。2010 年観光学部設立と同時に現職。専門は、産業政策論、公益事業論、比較経営論。主な著書に、『会社から社会へ』（東京書籍）、『変革期の郵政事業』（日本評論社）、『市民社会の経済学』（中央経済社）、『市民社会の経済政策』（税務経理協会）、『自助・共助・公助の経済政策』（東海大学出版会）など。

研究助成報告 4、5

司 会 中村 仁也 (株)ゴーガ 取締役

【中村氏略歴】

2000 年東京大学大学院数理科学研究科博士後期課程修了、博士（数理科学）。2006 年まで(株)富士総合研究所（現(株)みずほ情報総合研究所）にて数値解析業務を担当。2006 年(株)ゴーガを設立し、主に広告、マーケティング領域についてのデータ分析と数値シミュレーションを担当する。専門分野はデータ分析、数値解析、コンピューターシミュレーション。

8. 総括

17:55~18:00

第18回年次大会実行委員長 横川 潤 文教大学 国際学部 准教授

日本フードサービス学会 第 18 回年次大会実行委員会

委員長	横川 潤	文教大学 准教授
委 員	石倉 知忠	(株)つばめ 取締役副社長
	伊藤 匡美	東京国際大学 准教授
	大澤 哲	(株)柴田書店 企画編集室 室長
	小泉 徹	首都大学東京 教授
	高力美由紀	宮城大学 准教授
	白鳥 和生	日本経済新聞社 編集局消費産業部 次長
	立原 繁	東海大学 教授
	藤居譲太郎	(株)藤居事務所 代表取締役